

円滑な避難所運営のために HUG(避難所運営ゲーム)訓練の実施



9月9日(日)に毎年恒例の大正地区総合防災訓練を行ないました。当日は、秋雨前線が停滞し、大雨警報が出る中での開催でしたが、各地区、各種団体等から140名程の方が参加され実施することができました。

今年度は、7月に避難指示が発令されるなど、避難所への避難が現実的な課題となったことから、避難所での生活が不快なものとならないよう、どのように避難所を運営したらよいかを学ぶ訓練を実施しました。

実際に避難所を運営する訓練は難しいものがあります。そのため、カードゲームで、運営をシミュレーションして、課題・問題の把握や、事前の練習に役立てようと静岡県で開発されたのが、このHUGゲームです。

最初に、ゲームのやり方について、プロジェクターを使って説明がありました。ゲームを行うチームは、8名から12名程度で構成され、カードを読み上げる人と、その内容に基づき処理していく人とに分かれます。カードを読み上げる人は、避難される方が次々に来られる状況を作るため、少し早めに読み上げを行い、処理を急ぐように進めます。

訓練参加者は12のチームに分かれ、説明内容をもとに、防災リーダー等の支援も受けながら避難所運営ゲームを体験しました。

想定していない課題・問題への対処に戸惑われた方も多かったのではないかと思います。

「避難所運営の困難さがよく分かった。」との声も多くありました。

今後は、避難所そのものの環境改善も必要になってきています。今回の訓練が避難や避難後の対応について、各地域や各家庭で検討いただく際の参考になれば幸いです。



災害対応やゲームの説明



チームに分かれてゲームが実施されました。
各チームともスムーズに対応されていました。



災害避難や支援のあり方

7月には、梅雨前線の停滞による豪雨により、千代川の氾濫の危険性が高まったため、鳥取市は大正地区に「避難指示」を発令しました。

ちなみに、大正地区内には当初避難所は設置されていませんでした。また、これまで指定されていた場所とは異なる場所への避難など、混乱もみられました。

災害後に、かつて経験したことがない、見たことがない状況が発生したとの被災者等の声をよく耳にします。

今回の事例は、大正地区においても災害危機は他人事ではなく、すぐ隣にあることを改めて認識させるものです。

自分の命を守るためどうするのか。行政などは緊急時には対応できないことが想定されます。まずは自らが助かる行動をとりましょう。

災害時は近所等で助け合う(近助)ことが必要ですが、助け合える状況をいきなり作りだすことはできません。

そのためにはどのようなことが必要か、普段の生活から考えてみましょう。

大正地区では安全・安心な
地域づくりを目指し
あいさつ運動を進めています

あいさつでうまれる
人の和 地域の輪

<まち協事業予定>

まちづくりグラウンドゴルフ大会

期日 平成30年11月11日(日)

場所 大正小学校校庭